

国際的な気候変動政策の動向と 気候変動研究への要請

気候変動リスク情報創生プログラム
シンポジウム「気候変動のリスクを知る」

2014年9月30日

高村 ゆかり(名古屋大学)

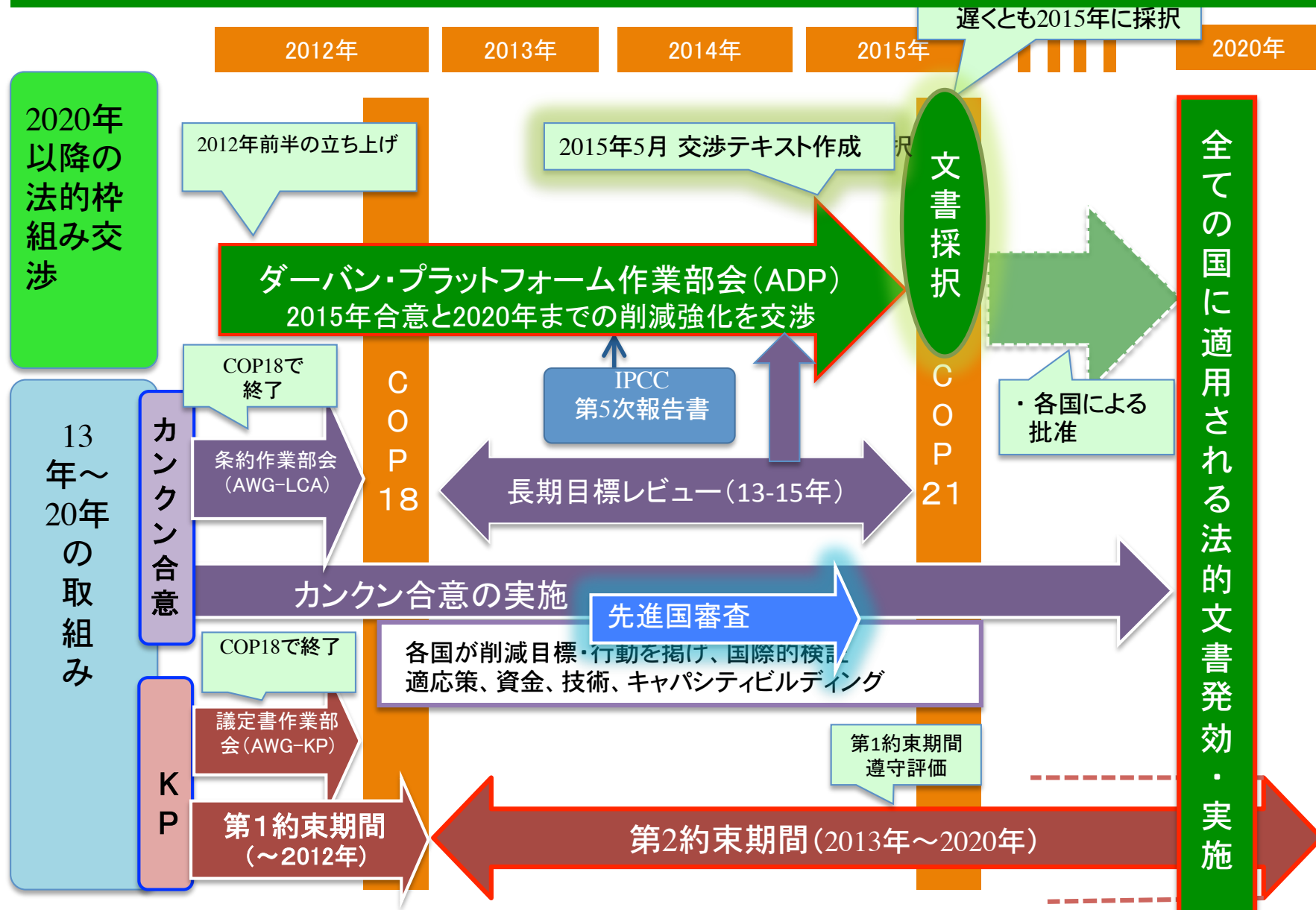
E-mail: takamura.yukari@g.mbox.nagoya-u.ac.jp

- 国際的な気候変動政策の動向：研究が置かれている国際的文脈
- 気候変動研究への政策的要請

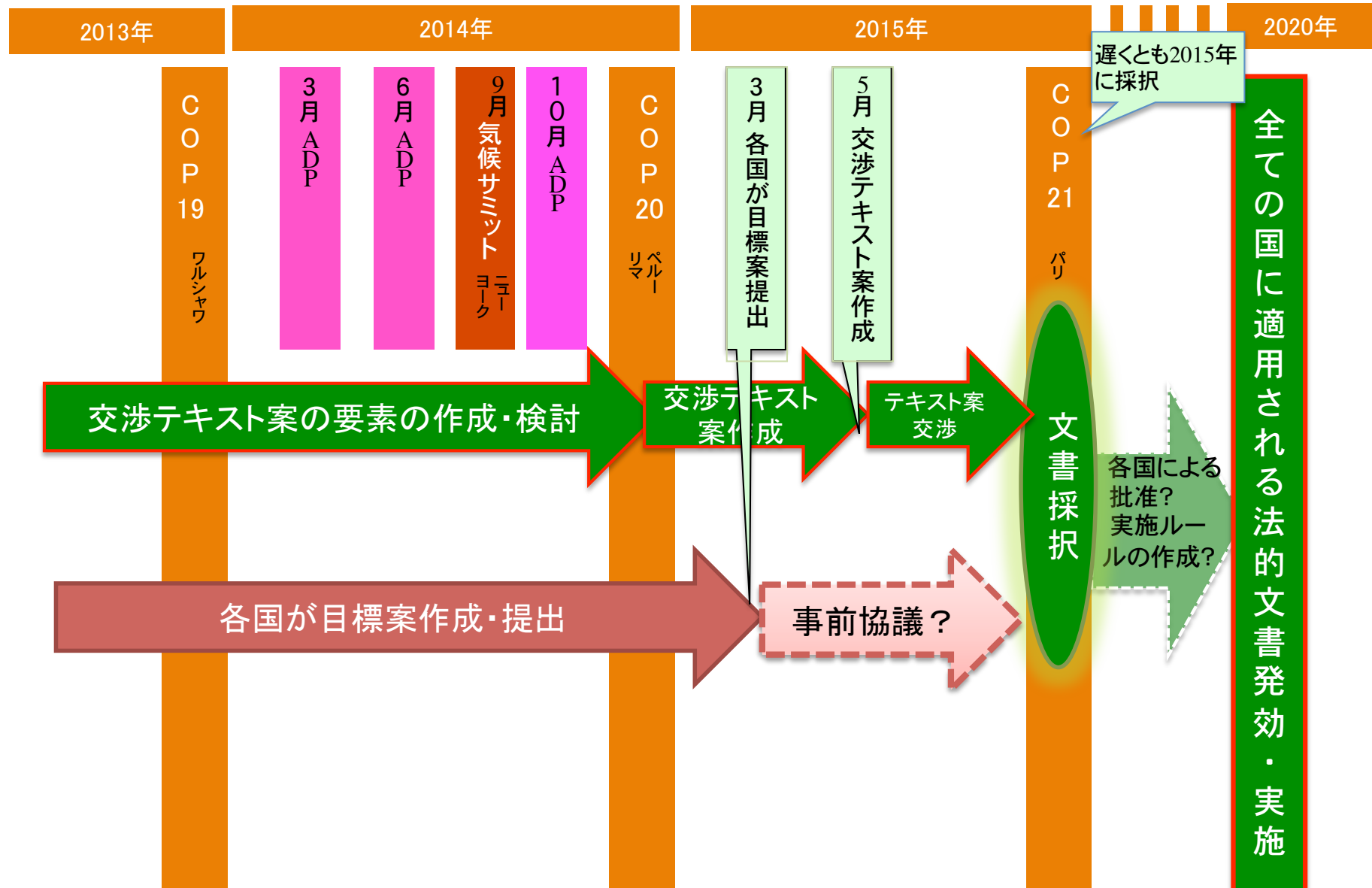
これまでの温暖化交渉の進展

- 1992年 国連気候変動枠組条約採択(1994年発効)
- 1995年 第1回締約国会議(COP1):ベルリンマンデート
- 1997年 COP3(京都会議):京都議定書採択
- 2001年10-11月 COP7:マラケシュ合意採択
- 2005年2月 京都議定書発効
- 2005年11-12月COP11・COP/MOP1(モントリオール会議)
- 2007年12月 COP13・COP/MOP3(バリ会議)
- 2009年12月 COP15・COP/MOP5(コペンハーゲン会議)
- 2010年11-12月 COP16・COP/MOP6(カンクン会議)
- 2011年11-12月 COP17・COP/MOP7(ダーバン会議)
- 2012年11-12月 COP18・COP/MOP8(ドーハ会議)
- 2013年11月 COP19・COP/MOP9(ワルシャワ会議)
- 2014年12月 COP20・COP10(リマ会議)
- 2015年12月 COP21・COP/MOP11(パリ会議)

2015年合意(2020年以降の法的文書)実施までの道のり



2015年合意に向けた2014年、2015年の交渉の流れ



政策の展開と研究への要請(1)

- IPCCの科学的知見が**気候変動交渉の基盤を提**
供してきた
- 国際交渉の場での**政策と研究コミュニティとの**
「対話」
 - 2005年のCOP決定に基づき、2009年より毎年
- **Future Earth** (持続可能な地球環境についての
国際協働研究イニシアティブ)
 - グローバルな持続可能性に向けて社会を根本的に
転換できるような**問題解決型の科学に重点**
- **IPCC第6次評価報告書(AR6)**に向けた議論
 - 作業部会間の連携強化

IPCCと国際交渉

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)	国際交渉(UNFCCC)
1990年 第一次評価報告書(FAR)	
	1992年 気候変動枠組条約採択
1995年 第二次評価報告書(SAR)	
	1997年 COP3 京都議定書採択
2001年 第三次評価報告書(TAR)	
	2001年 COP7 京都議定書実施規則合意(マラケシュ合意)採択
2007年 第四次評価報告書(AR4)	
	2007年 COP13 バリ行動計画(2013年以降の国際制度交渉開始の合意)採択
	2010年 COP16 カンクン合意(2013年以降の国際制度合意)採択
	2011年 COP17 ダーバン合意(2020年以降の国際制度交渉開始の合意)採択
2013-14年 第五次評価報告書(AR5)	
	2015年 パリ合意?採択 出典:高村作成

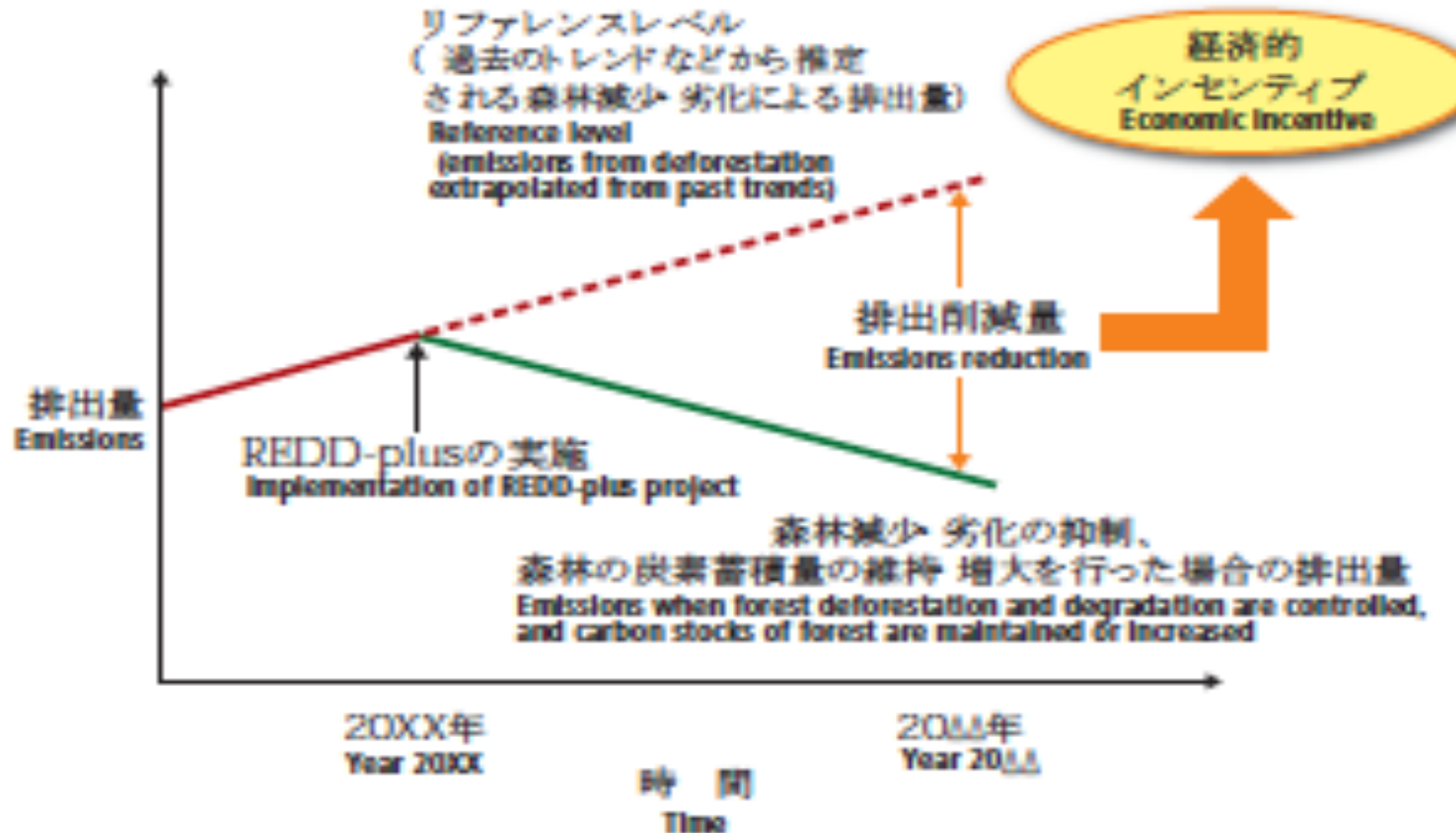
政策の展開と研究への要請(2)

- 政策の展開による**新たな要請**
 - より迅速で、大規模な排出削減を可能にする**実効的な枠組みをいかに**
 - 国際的な目標の設定だけでなく、**国やローカルなレベルでの対策をいかに促進するか**に重点
 - **削減努力の促進とそれに対する支援**
 - 先進国の排出削減と並んで**途上国の排出抑制をいかに促進するか**
 - 「**途上国**」の多様性の中での**衡平性と実効性**
 - **適応策への焦点**
 - 避けられない気候変動の悪影響への対処

政策の展開と研究への要請(3)

- 長期的な削減目標とその含意等に加えてより具体的な政策への貢献への要請と期待。例えば・・・
- 適応
 - 適応策・適応計画の策定
 - 後発途上国だけでなくすべての国が、じしんの適応策・適応計画を策定するのに必要な気候変動リスクの評価
 - 気候変動リスクに対処するための協力、支援
 - 保険などのリスク移転手法の開発
 - イベント・アトリビューション
- REDDプラス（途上国における森林減少等からの排出削減）
- 気象予測を用いた再生可能エネルギー導入促進
 - 例えば、再エネ発電量の予測や需要予測

REDDプラス



結びにかえて

- 気候モデルによる予測等、気候変動研究が国際政策の基盤を提供する役割を果たしてきた
 - 科学が(事前警戒的な)政策決定を先導した興味深い事例
- 加えて、実効的な気候変動政策構築に必要とされ、期待されるより具体的な課題解決への貢献に期待
- 当面鍵になるのは「気候変動リスク」「適応」「途上国」
 - 創生プログラムの貢献の可能性
 - 気候変動リスクの同定と対策という出口を意識し、それをめざしたテーマ間の相互連携
 - 途上国において、その国に関わる研究を持続的に遂行できる研究者を育てる能力構築
- 気候変動研究と政策・社会の新たな関係